

研究ノート

貧困に対する意識調査
—— 子どもの教育・福祉を学ぶ学生がイメージする貧困と支援について ——

亀山 洋光

日本福祉大学 非常勤講師

亀山 麻衣子

日本福祉大学 非常勤講師

Poverty Consciousness Survey
- Poverty Image and Support of Student Aiming to be Child Care Person -

Hiromitsu KAMEYAMA

Part-time Lecturer of Nihon Fukushi University

Maiko KAMEYAMA

Part-time Lecturer of Nihon Fukushi University

Keywords：貧困，意識調査，学生，支援方法

要旨

本研究の目的は、子どもの教育・福祉にまつわる学科を専攻する学生が貧困の条件に対する捉え方と学生自身の思いつく支援方法を明らかにすることである。本研究では第1学年の大学生369名に対して無記名自記式質問調査方法を実施し、質問項目は全て貧困にまつわる内容とした。その結果、貧困が原因だと思われるエピソードでは、『後先考えずお金を使う』、『雇用形態が変わり派遣社員が多いこと』の項目について貧困が原因だと思われるエピソードであるとの共感性や認識が低かった。また、貧困の条件では、『大家族世帯』、『ひとり親世帯』の項目について貧困の条件であるとの共感性や認識が低いことが明らかになった。このことから、今後貧困に関する学生への教育としては、貧困であるとの共感性や認識の低い項目について特に教育をしていく必要があると考えられる。